

調査結果の概要

1 発育状態について

愛媛県の子どもたちの発育状態を、全国平均や令和6年度の県平均と比較してみると次のようになる。

県平均：公立幼稚園、小・中・高等学校の悉皆調査による
全国平均：文部科学省が実施した学校保健統計（抽出調査）による
年齢区分：6歳～17歳の12区分

（1）身長

前年度県平均との比較では、男子は全年齢区分のうち、2区分で上昇、8区分で低下している。女子は全年齢区分のうち、2区分で上昇、8区分で低下している。

全国平均との比較では、男女とも全ての年齢区分で下回っている。

- ・男子は、前年度県平均と比べ、13歳、15歳で上昇、6～12歳、17歳で低下しており、その差は+0.2 cm～-0.7 cmである。
また、全国平均と比べると、全ての年齢で、0.5～1.0 cm下回っている。
- ・女子は、前年度県平均と比べ、9歳、13歳で上昇、7歳、8歳、10歳、11歳、14～17歳で低下しており、その差は+0.2 cm～-0.4 cmである。
また、全国平均と比べると全ての年齢で、0.5 cm～1.1 cm下回っている。

（2）体重

前年度県平均との比較では、男子は全年齢区分のうち、4区分で上昇、6区分で低下している。女子は全年齢区分のうち、5区分で上昇、6区分で低下している。

全国平均との比較では、男子は1区分で上回り、10区分で下回る。女子は2区分で上回り、9区分で下回る。

- ・男子は、前年度県平均と比べ、11歳、13歳、15歳、16歳で上昇、6歳、9歳、10歳、12歳、14歳、17歳で低下しており、その差は+0.9 kg～-0.9 kgである。
また、全国平均と比べると、15歳で0.4 kg上回り、6～12歳、14歳、16歳、17歳で0.1～0.5 kg下回っている。
- ・女子は、前年度県平均と比べ、6歳、9歳、11歳、13歳、17歳で上昇、7歳、8歳、10歳、12歳、15歳、16歳で低下しており、その差は+0.3 kg～-0.5 kgである。
また、全国平均と比べると、13歳、17歳が0.2～0.3 kg上回り、6～12歳、15歳、16歳で0.1～0.7 kg下回っている。

身体の発育と運動は非常に密接な関係があることから、引き続き、学校生活や日常生活の中で、積極的に体育活動に取り組むように促すとともに、望ましい生活習慣を身に付けられるように各学校の実態に応じて指導していくことが大切である。

2 疾病状況について

疾病状況について、疾病・異常のある者の率を全国平均や令和6年度の県の平均等と比較してみると次のようになる。

(1) 脊柱・胸郭・四肢異常（※四肢が平成28年度から追加された）

前年度の県平均との比較では、幼稚園の女子、小・中・高等学校の男女において上昇し、幼稚園の男子で低下している。

また、全国平均との比較では、幼稚園・中学校の女子、高等学校の男女において上回り、幼稚園の男子、小学校の男女、中学校の男子で下回っている。

(2) 裸眼視力（1.0未満）

前年度の県平均との比較では、幼稚園・小学校の男女、高等学校の女子で上昇し、中学校の男女、高等学校の男子で低下している。

また、全国平均との比較では、高等学校の女子を除き、全ての区分で上回っている。

(3) う歯（むし歯）

前年度の県平均との比較では、幼稚園の女子のみ「未処置歯のある者」の率は高くなっているが、全体的に下降気味である。

また、全国平均との比較では、幼稚園の男子、小・中学校の男女が上回り、幼稚園の女子、高等学校の男女が下回っている。

(4) 心臓の疾病・異常

前年度の県平均との比較では、幼稚園・中学校・高等学校の男子が上昇し、小学校の男女、中学校・高等学校の女子が低下している。

また、全国平均との比較では、幼稚園の男子、小・中・高等学校の男女が上回り、幼稚園の女子が下回っている。

(5) 腎臓疾患

前年度の県平均との比較では、幼稚園・小・中学校の男女、高等学校の男子が上昇し、高等学校の女子が低下している。

また、全国平均との比較では、全ての区分で下回っている。

健康診断や、日常の健康観察の結果を踏まえ、医療機関での精密検査や、治療を勧め、必要な事後措置を行うことは重要である。

保護者や関係機関等と連携を図りながら、今後も健康相談や保健指導を通して、一人ひとりの健康状態の把握や管理に努めることが望まれる。